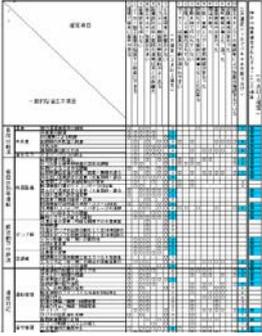
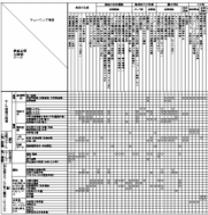


5. 3 チューニング項目（候補）選定方法の紹介

本節は、チューニング項目の選定方法に関する様々な特徴を複数掲載・紹介し、選択するための手助けをします。

表 5.3.1 チューニング項目案（候補）の選定法の紹介

● チューニング項目案（候補）の選定法の紹介	
<p>6月△日 エネルギーデータの把握も一通り終わった。夏になる前にどのチューニングを実施するか決定したいが、このガイドブックだけでもたくさん事例が載っている。うちのビルに合ったチューニング方法はどれなんだ。誰か教えて～！</p> <p>ガイドブックを見ると、「チューニング項目の選び方」がいくつか載っている。どれがいいかわからないので順番に試してみる。</p>	2.3
<p>はじめに「チューニング項目選定表」が載っている。</p> <p>この表は、たくさんあるチューニング項目のうち、お勧めの項目を選ぶ過程が示してある。右端に◎があるのがお勧めのチューニング項目であるらしい。</p> <p>選定要件の説明では、チューニング項目を選定する上での注意点が書いてある。これはチューニングを実施する時に、注意すべき点のリストとしても使えそう。</p> <p>一応点数は書いてあるが、自分のビルの事情に合わせて○を付け直せば、自分のビルのお勧めチューニング項目が選べる。うちの場合は・・・設備投資をとまなわない・・・うちではこれが重要かも。ああ。</p>	 <p>表 3.1.1 4.3 チューニングの実施と効果検証</p>
<p>次に「チューニングに必要な情報確認シート」が載っていた。</p> <p>この表は「このチューニングをするなら、この項目は測定してください」というのが本来の趣旨なのだろうが、「これしか測定データがないなら、このチューニング項目はどうですか」という表としても使える。測定が楽なチューニングから試してみるというのも一つの方法かもしれない。</p> <p>計画書を作る時の測定項目漏れのチェックにも利用できそう。</p>	 <p>表 3.2.1 チューニングと効果検証の準備</p>
<p>次に「チューニング項目一覧表」が載っていた。</p> <p>省エネの目的や対象となる機器別に整理されている。この表をみて、自分のビルにあっていれば、その「省エネチューニング解説シート」が選べるっていう寸法か。タイトルを読んで詳しく知りたければ解説が読める。親切だね。</p>	 <p>表 4.1.1(1)(2)</p>
<p>次に「チューニングの検討に必要な情報（因果関係検討情報の例）」が載っていた。</p> <p>この表は、異常時の現象から、その原因や対策にたどり着けるようだ。故障診断みたいで便利・・・いや、この表は自分の持っている情報を整理するというのが本来の使い方らしい。要因、原因と表を埋めていくうちに、自分でチューニング項目を考えられるようになるそう。うーん奥が深い。さっきの「一覧表」の応用編で玄人向きの方法かな。今回のチューニングが終わったら取り組んでみよう。</p>	 <p>表 3.2.2</p>
<p>次に「フローチャートによる選択方法」は雑誌の恋愛診断みたいで楽しそう。自動的に項目が選択できるからウチの新人でもできそう。『チューニング手法発見フロー』を試してみた。選択肢がもっと詳細で容易に判断できる。でも、外気・冷温水・冷却水の3種類しかないからもっと種類がほしいねえ。</p> <p>課長は「チューニング項目一覧表」の方が気に入っているよ。表題を見れば概ね内容がわかるから、チャートをたどるよりこっちの方が速いって。</p>	 <p>4.1「チューニング手法発見フロー」</p>

■どの方法でチューニング項目を選定するか■

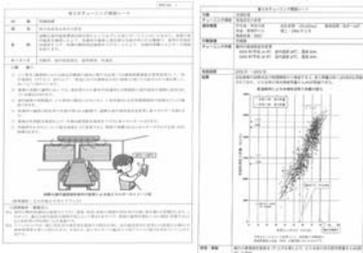
このガイドブックにはチューニング項目を選定する方法が複数掲載されている。自分で好みの方法を用いてチューニング項目の選択に活用されたい。

また、これらの表には本来の使い方以外に、計画書や報告書の見直しに使用したり、故障の診断に使用できる表もあるので、様々な応用ができる。

5. 4 チューニング項目案（候補）選定

この節では、5.3 で述べたチューニング項目案（候補）選定方法を用いて、実際にチューニング項目を選定する過程について解説します。

表 5.4.1 チューニング項目案（候補）の選定

● チューニング項目案（候補）の選定。		
<p>6月◇日 表やフローシートを見ているうちに、だんだん要点が絞られてきて、次の3つに注目することにした。</p> <p>1) まず 24時間トレンドグラフで、朝にピークがあることがわかったので朝のピークの原因と対策を考える。</p> <p>2) 次に、ビル管法 → のデータも調べたらCO₂が500ppm以下というデータがいくつもあって、どうも外気が多過ぎるようだ。→いまは全館禁煙だけど、喫煙OK時代に作られたビルなので、タバコ排気分の外気が多いのかも。</p> <p>3) また、冷房期の終わり頃でも、エネルギーが盛夏とほぼ同じ。外気温も調べたが、厳しい残暑というわけでも無いので、工夫の余地がありそうだ。</p> <p>この条件に合うチューニング項目を探してみよう。</p>		<p>→ ビル管法 建築物における衛生的環境の確保に関する法律</p> <p>他にはボイラの点検記録も役に立つ</p>
<p>ガイドブックには「省エネチューニング項目」という表がある。このガイドブックに載っているチューニング項目の一覧のようだ。「省エネチューニング事例シート」に対応しているらしい。さっきも同じシートがあったような・・・。</p> <p>あっ、前の方は「～解説シート」（左）で後ろの方は「～事例シート」（右）だ。解説シートは教科書で、事例シートは体験レポートなんだ。「解説シート」は実施の方法が細かく書いてあり、「事例シート」は建物の規模や条件がわかるので「〇〇という省エネ対策を実施すれば、電力の〇〇%を削減できる」という達成見込みが立てられる。この「事例シート」は実例なので、末尾に添付すれば計画書も説得力が増すかな。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・省エネチューニング「解説」シート ・省エネチューニング「事例」シート
<p>6月×日 もう一度ガイドブックのチューニング項目案（候補）選定法の表やフローシートを見直して、解説シートや事例シートを選択してみた。</p> <p>チューニングの手法としてはとりあえず「外気量のダンパによる削減」、「起動時の外気取り入れ制御」、「冷水出口温度の変更」この3つをやってみることにした。3つチューニングしたら3%削減できるかな？</p>		
<p>■複数の項目を実施する場合■</p> <p>例えば3つの項目を実施する場合、それぞれの省エネ項目のエネルギー削減量の合計値が、3つの項目を実施した場合のエネルギー削減量と同じではない。選んだ項目によっては、効果を減殺する可能性がある。これは原単位管理ツールによるシミュレーションでも同じである。</p>		